

1 月定例記者会見の概要

- 1 日 時 令和7年1月8日（水）10時00分～11時00分
- 2 場 所 本庁舎2階 正庁
- 3 出席者 <報道機関>
 - ① 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
 - ② 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
 - ③ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
 - ④ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑤ NHK 南相馬報道室（南相馬記者クラブ会員）
 - ⑥ 時事通信社 福島支局（南相馬記者クラブ会員）

計 6 社

< 市側 >

- ・市長・総務部長
(テレビ会議)
- ・新田副市長・教育長・小高区役所長・鹿島区役所長
- ・復興企画部長・市民生活部長
- ・健康福祉部長・こども未来部長・商工観光部長
- ・商工観光部企業立地担当理事・農林水産部長
- ・農林水産部政策担当理事・建設部長
- ・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 17 人

- (司会進行) 秘書課長
- (会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

皆様、明けましておめでとうございます。記者の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

旧年中は市政に対し格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。早速ですが、年頭あいさつを兼ねて、市政報告をさせていただきます。

令和6年を振り返りますと、1月には、能登半島地震被災地への応援職員を派遣、住みたい田舎ベストランキングの同規模自治体総合部門の3位入選、2月には、新庁舎の基本設計に係る市民説明会も開催し、新庁舎の構想骨子が固まったと捉えています。3月には、市民の利便性向上につながる「書かない窓口サービス」も開始しました。

年度が替わると、4月には市民プールの開所とみらい農業学校の開校、5月には「国見山森林公園」のリニューアルオープンに加え、令和5年から検討を重ねてきた相馬野馬追の5月開催を実現し、入込数も増加し喜んでいるところです。

6 月には、市内初の病児保育事業が「はらまちスマイルクリニック」で始まりしました。

8 月には、東北最大級の「福島スペースカンファレンス 2024」の開催や、本市に本社がある AstroX 社によるロケット打ち上げ実証実験成功があったほか、9 月には、浦尻貝塚縄文の丘公園のガイダンス棟の公開による全面供用を開始しました。貝塚観察館は県建築賞をいただきました。市立総合病院では初の試みとなるオープンホスピタルの開催、10 月には、ワールドロボットサミット 2025 のプレ大会が開催され、市内のチームが 2 位に入賞しました。

そして、令和 7 年がはじまりました。第 2 期復興・創生期間の仕上げの年です。

今年は、コツコツ事業を積み上げる一方で、柔軟な発想でのチャレンジを行う、これらにより「期待感」「ワクワク感」などが感じられる復興を進めてまいりたいと考えているところです。

震災後、子育て・教育環境の充実、仕事づくり、医療・介護・福祉の復興、防災まちづくりなど、目の前の課題に対して知恵を絞りながら取り組みを進めてきました。これらは今年も、コツコツと進めてまいります。

さらに、南相馬鹿島サービスエリアの充実を含む周辺開発、宇宙関連事業の進展など、柔軟な発想でチャレンジしてまいりたい。

これらの取り組みを一つ一つ積み上げることによって、「100 年のまちづくり～家族や友人とともに安心して、心豊かに暮らすまち～」の礎となるよう、職員一丸となって住みやすく魅力あるまちづくりに努めてまいります。

記者の皆様におかれましても、本年も引き続き、市の情報発信にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、前回 11 月 20 日の記者会見から最近までの出来事についてご報告申し上げます。

はじめに、フード&日用品ドライブについてです。

11 月 21 日に市職員対象の「フード&日用品ドライブ」を初開催しました。職員 46 人から、家庭で余っている食品や日用品 341 点、97.4kg が集まり、南相馬市社会福祉協議会へ提供しました。

食品ロスの削減など、ごみ減量を促進するため、対象を市民に拡大する形で来月に再度実施する予定です。詳細は後日お知らせします。

次に、市議会定例会についてです。

第 5 回南相馬市議会定例会は、12 月 19 日に閉会しました。

この議会では、「南相馬市小高区復興拠点施設条例の一部を改正する条例制定」や補正予算、追加提案を含む議案 34 件について、全て原案どおり可決、同意されました。

また、正副議長改選の結果、議長に鈴木昌一議員、副議長に小川尚一議員が選出されました。

次に、貝塚観察館の福島県建築文化賞の受賞についてです。

浦尻貝塚縄文の丘公園貝塚観察館が12月25日、環境に調和し、景観上優れた建築物をたたえる「第40回福島県建築文化賞」の正賞に決まりました。

斜面にある遺跡を傷めないような設計や、地域住民が維持・管理に関わり地域再生の一環として重要な役割を果たしている点などを評価いただいたと聞いています。

ぜひこの機会に足をお運びいただきたいと思います。

次に、移住定住に関するランキングです。

1月4日に発行された宝島社「田舎暮らしの本」2月号の住みたい田舎ベストランキングで、本市が東北エリアの総合部門で、今年の3位から順位をあげ、1位となりました。

また、同規模自治体の総合部門でも、今年の3位から2位に順位をあげました。

引き続き、若い世代の移住促進、子育て世代に選ばれるまちづくりに取り組んでまいります。

続いて、今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、二十歳を祝う会についてです。

1月12日に二十歳を祝う会を開催いたします。

平成16年4月2日から平成17年4月1日に生まれた方で、本市在住もしくは本市出身の方が対象となっており、1月8日時点で340人の方から参加申し込みをいただいている状況です。二十歳を迎えた皆さん、おめでとうございます。

次に、南相馬市民俗芸能発表会についてです。

地域の風土や人々の営みと共に育まれてきた民俗芸能を保存し、後世に継承するため、2月2日にゆめはっとで民俗芸能発表会を開催いたします。当日は市内外の7団体に出演いただきます。

【質疑応答】

質問1:

「第2期復興創生期間の仕上げの年」として今年1年、どのようなことを意識した1年にしたいでしょうか。

回答1: 市長

これまでさまざまな課題解決に取り組んできました。

先ほど「第2期復興創生期間の仕上げの年」と申し上げましたが、復興が令和7年度で完了するというわけではなく、1つの区切りと捉えています。

その上で、特に意識していることは2つです。

除染や住宅再建、医療や子育て・教育環境の充実、なりわいづくりなど、これまで一つ一つ積み上げて取り組んできたものに引き続き努力してまいります。

一方で、人々が南相馬に誇りを持ち、心豊かに住むためには、ワクワク感や期待感を意識することが大切だと考えています。そのため、現在、南相馬鹿島サービスエリアの施設やその周辺がにぎわいの拠点になるよう計画を作成しています。

加えて、ロボットなどと親和性がある宇宙産業、高見町地内に今年度着工する子育て支援拠点施設周辺の賑わい創出などについても、大胆な発想で柔軟にチャレンジしていきたいと考えています。

質問 2:

(仮称) 小高スマートインターチェンジの進捗状況を教えてください。

回答 2: 市長

現在、用地交渉を中心に進めています。1日も早く、具体的な工程をお示しできるように努力します。

質問 3:

帰還困難区域の解除について、進捗状況を教えてください。

回答 3: 市長

帰還困難区域に含まれる1軒の方が居住できるよう、国との協議などを行いながら、除染計画の作成に入りたいと考えています。

1日も早く内容がお示しできるよう、現在、現地調査などを行っています。

質問 4:

他自治体と同じように、特定復興再生拠点区域や特定帰還居住区域の枠組みを使って計画を作成するのでしょうか。

回答 4: 市長

その仕組みで進めるよう、国と協議を行っています。

質問 5:

能登半島地震から1年が経過しました。南相馬市は早い段階から支援や職員の派遣を行いましたが、今後の支援や関わり方について教えてください。

回答 5: 市長

能登半島地震の発生後、被災地で初期対応にかなり苦勞していらっしゃる様子が見られました。職員が自ら「現地に行きたい」と手を挙げてくれたこと、また、わたしたちに大震災や大雨などの初期対応などにノウハウがありましたので、り災調査などの初期対応でお役に立てればとの思いで職員を派遣いたしました。

現在、国や県の支援の枠組みが整っていると承知していますので、今後は県や全国市長会を通じて要請等があれば対応したいと考えています。

質問 6:

先日、石破総理大臣から「第2期復興創生期間終了後も、今までの5年を超える財源を確保していかなければならない」との発言がありました。それに対する市長のお考えをお聞かせください。

回答 6: 市長

復興は一步ずつ進んでいるものの、まだ終わっておらず、特に20キロ圏内については復興に直接かかわる事業が残っていますので、第二期復興創生期間後も引き続き支援をお願いしたいと申し上げてきました。

同時に、復興が進むにつれて新しい課題も出てきているので、新しい課題に柔軟

に対応できる体制作りをお願いしたいと申し上げてきたつもりです。

石破総理大臣からも、福島復興は最後まで責任を持つということ、また第2期よりもさらに財源を確保するという具体的な言及もありました。

復興に向けてやるべきことが多く残っている、あるいは、復興が進むにつれて新しい課題が出てくるという福島第一原発事故の特徴も理解していただいております、まずはほっとしています。

今後は具体的な事業などについて調査や協議があると思います。状況をしっかり説明して、課題が解決できるように市としても頑張っていきたいと思います。

質問 7:

1月9日に東京電力の小早川社長が訪問されると伺っています。どのようなことを要望する予定でしょうか。

回答 7: 市長

従来、要望した内容と基本的に同じです。

まずは廃炉を確実に、そして安全に行っていただきたい。また、処理水の放出などもしっかりと行っていただくとともに情報開示を行っていただきたい。

もう一つは賠償問題です。事業者や個人の賠償をしっかりと対応してほしいということを引き続き要望したいと思っています。

加えて、市内の事業者は物価高などの厳しい環境にあり、復興に向けて楽観できる状況ではありません。そうした中で、廃炉作業を含めさまざまな事業に、地元の事業所が参加できるような取り組みをさらに進めてほしいと要望する予定です。

安全に、着実に廃炉を進めていただくことが、人々がこの地で安心して暮らしていくための基盤になります。事故がないよう着実に作業を進めていただきたいと思います。

以上